

『食卓から地球環境がみえる 一食と農の持続可能性』 湯本 貴和 編

第3章 日本の食卓はいま 佐藤洋一郎

○食の分離

「食の分離」・・・世界中に住まう人の半分以上が、自己の食を他人に頼るようになっていくにつれて、いかに深刻な地球環境問題になりつつあるか

○食卓に起きた変化

中食と呼ばれる、できあいの食材の増加

「食の貧困」・・・食のほぼ全般を外食や中食に、さらにはインスタント食品に頼る状況

「食の減退」・・・ダイエット・ブームによる、やせることへの執着

○運ばれる食材

食の加工プロセスと運搬の激増が一番大きな変化 — 食材の動く距離が格段に伸びた

フードマイレージの値があまりに大きくなりすぎた → 食料の問題が地球環境問題に発展

○激増する輸入食材

食料輸入量の増加・・・国内生産の低下

コメの場合は、消費の減退など様々な人為的原因が関係している

○バーチャルウォーターにみる食の輸入の実態

牛丼1杯 風呂桶(180L)9杯分

天ぷらうどん1杯 220L

日本が1年間に輸入した仮想水の総量は、琵琶湖の貯水量の2倍に匹敵する

→ 世界の水問題に圧迫を与えていることへの日本の道義的責任はまめかれない

○食材の多量輸入のもうひとつの問題

食材の輸入 → 炭素、窒素、酸素、水素などの物質の多量輸入

物質循環に与える影響は案外大きいのではないかと

○グルメブームと食の偽装

「食の貧困」⇄ グルメブーム

多くの人は、値段が高いものはうまい(高品質・安全)と信じて買う → 偽装の温床

世界に何億という飢えた人がいるのに、期限切れという理由だけで多量に廃棄されている事実

→ 偽装が起きる背景には現代日本の消費者の姿勢

偽装は異文化を持つ人々の宗教、思想の自由を奪うことにもなりかねない深刻な問題

○失われつつある多様性

品種の多様性の喪失は、食べ方やその文化、さらには言語の多様性も失わせている

= 遺伝的多様性や種多様性の低下は、調理法や食べ方の多様性の喪失、食文化や言語の喪失

○日本農業の問題

農業人口の高齢化 → 過疎化 → 集落自体の崩壊 = 森が有史以前の極相林へと遷移

→ 野生動物と人間との軋轢 「獣害」

害獣増加の問題は、農業生産基盤そのものの崩壊の危機をはらんだ重大な問題

○さいごに — 食の問題は地球環境問題である

日本を中心に食をめぐる問題が起きていること

・膨大なエネルギーを消費しつつ進行する食の輸入

・国内における生産の減退

値段がどうこういう以前に、国土は荒れるに任せて膨大な量のエネルギーを付加された食材を輸入して消費していることの倫理的意味を、日本人が考えるべき。

- ・食事にもう少し手間をかけてみよう
- ・食にもう少しお金をかけてみよう
- ・地域のを、旬の時期に食べよう

第4章 「食」の現状 — 人類史上の位置 秋道智彌

○食の不透明さを考える

自国の経済発展のかけで環境が劣化するシナリオは国内問題だけとしてあるのではない。

日本のために犠牲にされたアジアの環境や住民の暮らしの例は枚挙にいとまない。

生産者と消費者とのあいだに存在する巨大で複雑な流通システムが食の世界を不透明化している。

○食の人類史

- ・ 人類の食性 道具の開発、食料の調理・加工の工夫 → 雑食性 地域に合った食適応
- ・ 食の拡散・・・世界各地における栽培作物の構成や作付け、土地利用、水利用に大きな影響
それぞれの地域で食文化を多様な形で発展、変容させた
現地では安く買い、利潤を生み出すべく高く売る → 現地の住民の搾取と環境破壊
- ・ 発展と破壊 食を切り口として地球環境問題を考える
農耕がなければ、人類の歴史上、比類ない人口爆発も環境破壊も生じなかった 「農耕原罪説」
栽培化・家畜化された結果、多様な品種群が生み出され、二次的、三次的な多様性が起こった
農耕が人類の繁栄に寄与したことはまちがいない、未開と文明を区別するもの 「農耕礼賛説」
「生業複合説」

○食をめぐる地球環境問題

- ・ 焼畑とモノ・カルチャー
十分な休閑期間をおかずに常畑化する焼畑は、持続的な農耕とはいえない
集約的に栽培するプランテーション農業による環境劣化、住民生活の破綻
- ・ 混合栽培・養殖と家庭菜園
アグロ・フォレストリーや混合養殖を通じて、住民生活の安定と食料の安全保障を目指す試み
↓
食料を生産する場が単純な生態系ではなく、多様な生物をはぐくみ、住民に少しであっても利用できる食料資源を提供できる場とする → 生態系と住民生活双方が不利益を蒙る危険を分散
- ・ 塩害と水問題のアンバランス
過度な取水によって土壤中の塩分が表土に流出し、農耕不適地となる塩害の発生
水資源分布のアンバランス（洪水、旱魃）・・・食料生産のアンバランス
日本の食料輸入がアメリカ中部で深刻な水の環境問題を引き起こしている
- ・ 人口問題と食
地球環境問題の典型 — 人口を扶養するための食料確保には環境破壊が必然的に伴う
陸上の農耕地の限界 → 海洋空間の可能性（中国の動向）

○海洋資源と食

- ・ マグロをめぐる
日本は世界中からマグロを輸入し、このまま消費が拡大しつづけるとマグロ資源に重大な打撃
- ・ 産地偽装と認証制度
産地表示はブランド化につながるが、
マイナス評価もあれば、加工食品の原材料の原料まで産地表示する法的強制力はないし、不可能表示偽装問題 密輸や不法な取引と同じような誤魔化しが食の世界に蔓延
「何も書かれていなくても食品を安心して購入できる社会が到来しないものだろうか。」
- ・ ナマコから活魚まで
未成熟の個体の乱獲（食のファッション）・・・資源としての再生産量に影響
資源の無駄づかい問題 — フカヒレ、欧米諸国の捕鯨など
ハタ漁の際の青酸カリ使用
美食のかけで資源の乱獲や環境の劣化が着実に進んできた
- ・ 食の統合的評価に向けて
日本はグローバル化した世界の中で環境への大きな負荷をもたらす輸入大国
現代における食は、農地や海洋、森林の問題だけでなく、地球全体の環境問題となっている
気候変動や異常気象による要因とともに、社会経済要因や国際市場の動向をふまえた統合的な理解が必要。